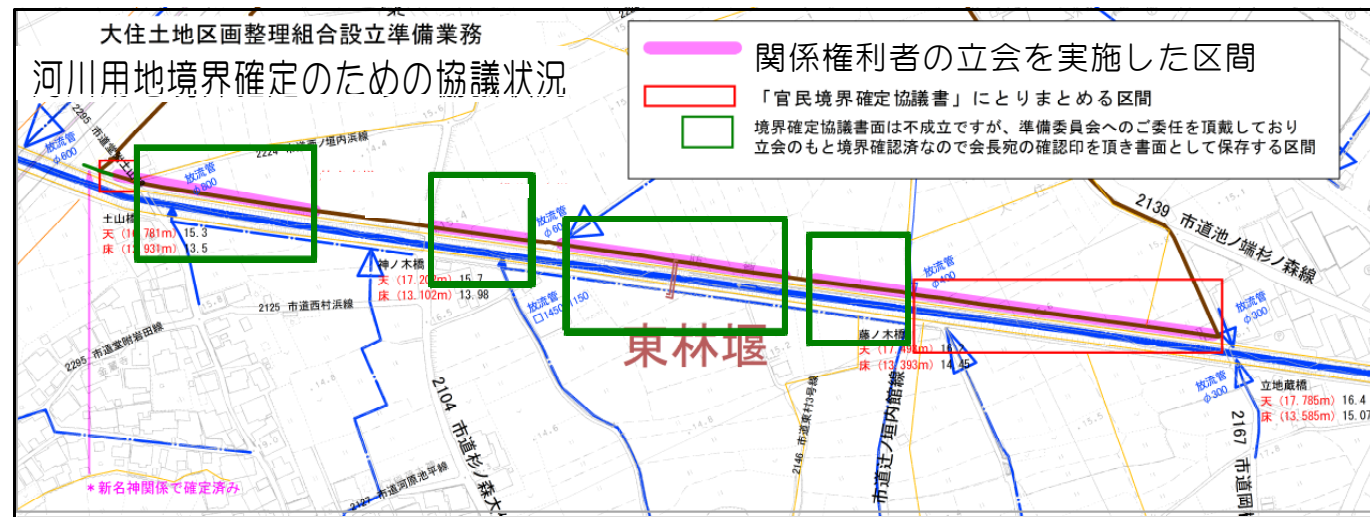


防賀川沿いの官民境界確定への協力のお願い

防賀川については、河川の早期改修のため、現況の用地境界を確定する立会を昨年実施いたしました。当日は関係権利者、各区長さん及び府市担当職員の立会を得て、当準備委員会会長宛に委任を頂戴した権利者の関連する区間については、円満に境界線が確定しております。これを表示した地図に確認印を頂戴するものです。

準備委員会としては、こうした成果を受けて、新名神高架下にネクスコが設ける遊水地、組合が設ける計画の調整池等と連携した総合的な治水計画を検討してまいります。

【防賀川関係】



未立会の権利者様方にも、用地境界確定に向けてご相談に伺います。

各位におかれては、こうした地道な努力が防賀川の改修早期実現に向けた確実な歩みであることをご理解くださるようお願い申し上げます。

編集後記

去る8月15日早朝に当準備委員会副会長として永く貢献してこられた岡本進さんが逝去されました。謹んで哀悼の意を表し、当会から感謝状をお贈りいたしました。

企業立地については、「三菱食品株式会社」の保留地買い取り申し入れを、役員会が受け入れる方向で取り組むことを決定いたしました。地産地消を推進し、地域の顔となる中核企業として歓迎します。併せて、事業計画案を改訂してまいります。役員会でご審議をいただきながら事業を更に推進するための基本同意を頂く作業に、近日中に着手いたします。

台風18号は「南山城水害」から60年目にやってきました。改めて治水の重要性を思い知らされます。「川を治める者は国を治める」という言葉があります。京都盆地の水を集める桂川、琵琶湖の水を一手に引き受ける宇治川と木津川が三川合流する地域であります。大住土地区画整理事業は、地域の恒久的治水対策である防賀川改修を進める千載一遇の機会ととらえています。岡本進さんのご遺志に応え、地域住民の皆さまや権利者の方々からやって良かった事業だと言われるよう、最後まで奮励努力する所存であります。

どうか、一層のご理解ご協力を賜りますよう、改めてお願いを申し上げます。

平成25年9月26日

事務局長 牧草 弘師

大住土地区画整理組合設立準備委員会機関誌

平成25年9月26日 第11号

編集 大住土地区画整理組合設立準備委員会
発行 会長 小田 壽樹
事務局 牧草コンサルタンツ株式会社 内
京田辺市東西神屋 28番地の1 0774-62-3448

しんおおすみ

台風18号被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げます

昨年8月13日夕刻から14日早朝にかけて田辺地区で、約210mmの連続降雨があり、ピーク1時間では約80mmの豪雨を観測したとの記録があります。

今年は9月15日から16日にかけておよそ20時間で、約240mm降り、ピーク1時間では33mm程度の強雨を観測しています。桂川流域でも琵琶湖流域でも相当量の降雨があり、風雨の影響が相まって山間部を中心に被害が拡大した模様です。

今回は、前線の影響で京田辺市内でもトップクラスの大雨だった模様です。

・上流部神矢樋門

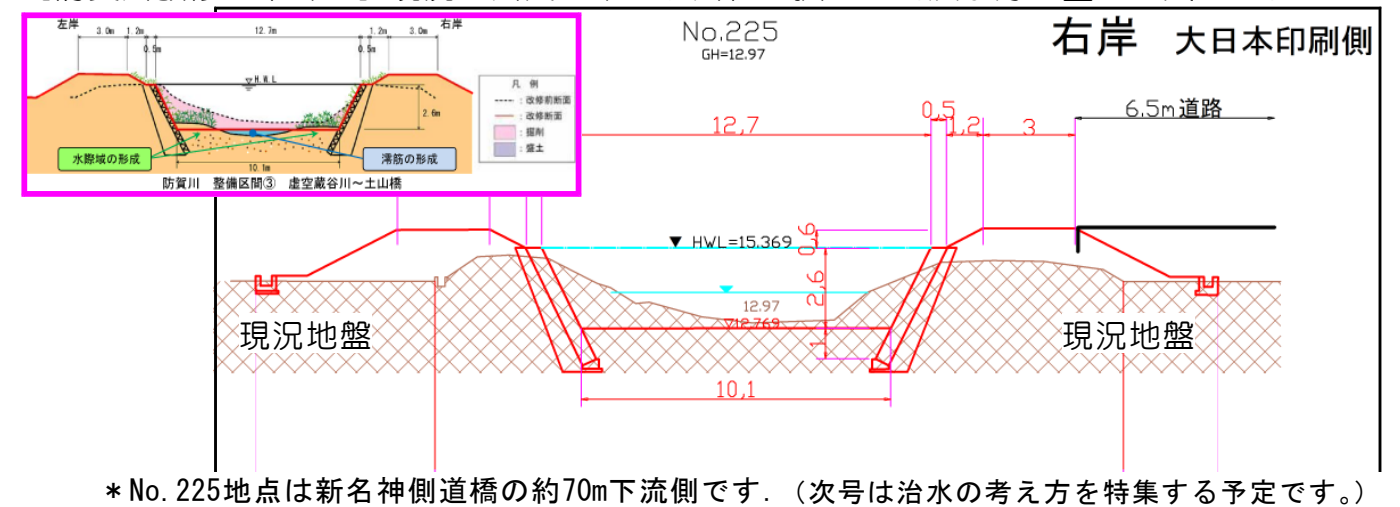


・虚空蔵谷川合流部



※こうした大雨が今後も降ることを前提として防賀川の改修事業を早期に実施できるよう条件を整備することが大切です。改修後にはピーク1時間で85mm、24時間総雨量350mmまでを流下させる能力が備わり、地域の安全性を高め住民の不安は大きく和らぎます。

【防賀川改修基本計画】現況の川底が下がり川幅も広がって洪水貯留量が増大します。



* No. 225地点は新名神側道橋の約70m下流側です。(次号は治水の考え方を特集する予定です。)

大住土地区画整理事業改訂基本構想(案)を作成

三菱食品株式会社を誘致する計画を前提として、防賀川や下流地域への排水負担を出来るだけ現況よりも軽くすることとして改定した基本構想図(案)です。

このため、ネクスコと連携させて頂いて実施する治水計画の方針とも整合を図ります。



[土地利用構想の概要]

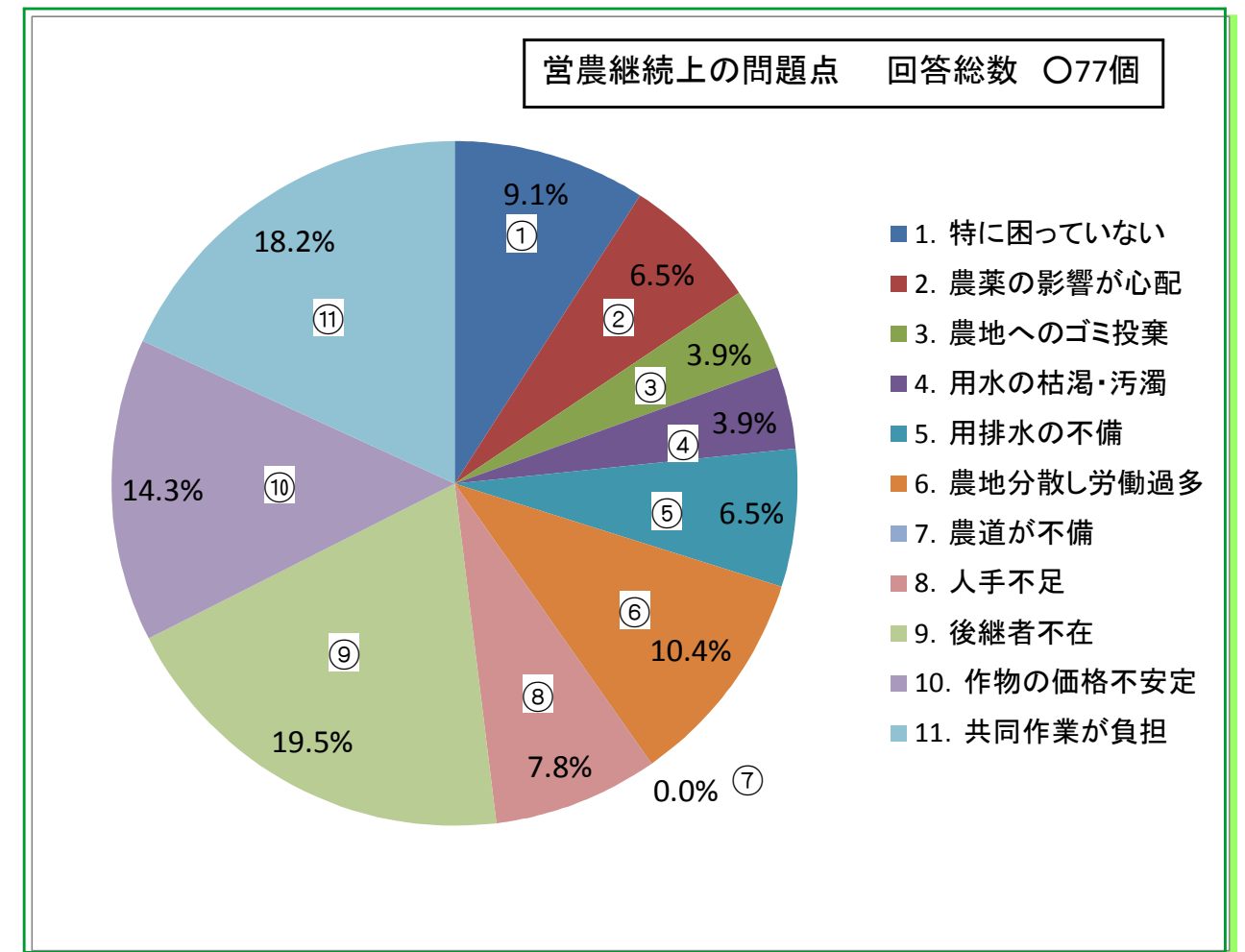
- ・三菱食品株式会社からご提案のある一万坪強の敷地を中核として、一般工業系ゾーンは大手企業の敷地利用数社に対応できる計画とし、必要な事業計画の改定を行います。
- ・その他工業専用ゾーンは、市内外からの移転需要に応え、山城南部地域内工業の再配置構想にも貢献する利用計画を策定いたします。
- ・沿道利用ゾーンは、地域への貢献、企業職員への福利厚生施設の立地も考慮するもので、道路交通の安全を増進する休憩施設、飲食物販施設等の立地も誘導するものです。
- ・事業地区西端部に親水企業ゾーンを設定しておりますが、水辺と緑地とが交差する緑の拠点ゾーンとして相応しい企業立地、敷地利用を推奨する計画です。
- ・土山大嘗料地区は大住農業の中核でもあり、歴史に名を残すことも検討しています。
- ・こうした積み上げにより、「地産地消」「内需主導」の新しい工業団地を形成し、新たな雇用の場を提供することが当土地区画整理事業の大きな目的のひとつです。

10年後の大住地域農業について

最近とある地域の農家組合総会で、京田辺市農政課から農家アンケート調査の結果について報告、説明があったと伺いました。

大住は今、京奈和自動車道路、第二京阪自動車道路に続いて新名神高速道路が建設されつつある中、農業、農地の保全と地域社会の維持発展に向けた真剣な取り組みが各方面で続けられています。

私ども「大住土地区画整理組合設立準備委員会」としても、東アジア全体での環境保全と平和を維持していく努力までを見渡して、大住の将来像を考えようとしております。



上の図は、農家アンケート調査票前半の問.7への回答傾向です。

後半の問では、人手不足、後継者難、従事者の高齢化等大住の農業に関わる不安も浮き彫りとなっておりますが、京阪神に近い立地と豊かな地味、長い歴史等を踏まえて、解決できない問題はないと存じます。

頑張っている中核農家が更に頑張り、適正な利益を確保できるようにしていくことも重要です。準備委員会としても関係機関との協議の中でできる限りの手立てを検討して参ります。